

とぎつちよう　うちどく　すいしん
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ちゅうがくねん　む　ねん
中学年向け　2025年　秋号



とぎつちようりつとぎつとしょかん
発行：時津町立時津図書館



「名なしのこねこ」

とりこえ　まり//著（アリス館）

夫が車屋さんでみかけたこねこは、公園から迷い込んだ野良猫だった。車屋さんはそのこねこにミルクを飲ませていた。これを聞いたわたしは気が気じゃない。こねこはミルクをのむと下痢をして弱って死んでしまうこともある。夜、夫と二人でこねこを探しにでかけたが…。

うちどく

家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。むずかしいルールはいりません。家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



「山のとしょかん」

肥田　美代子//文　小泉　るみ子//絵
（文研出版）

一人暮らしのおばあさんは、自分の子どもたちが小さい時に読んであげていた絵本を一人で声に出して読んでいました。すると、一人の男の子が聞いていて、それから毎日男の子はおばあさんの読み聞かせを聞きにくるようになりました。でも、この子、何かがおかしい。おばあさんがこっそり後をつけてみると…。



「たったひとつのひかりでも」

キャット　イエイ//ぶん　イザベル　アルスノー//え　まつかわ　まゆみ//やく
（評論社）

もしも、不安や心配でここが真っ暗なら、しんこきゅうをひとつ試してみよう。小さな光がみえるはず。そしてその光は、どんなにちいさくても、あなたの道を照らすのにはじゅうぶん。それでも不安なら、もうひとつしんこきゅうを試してみよう。小さな光は消えてはいない。



「怪物園」

j u n a i d a // 著（福音館書店）

ある静かな夜、怪物園から怪物たちが逃げ出してしまいました。怪物たちが何日も街を進行するため、外で遊べなくなった子どもたちは退屈。そこで、壮大な空想の旅に出かけることにしました。世界的に大注目の画家 junaida の可愛くて美しい、想像力をかきたてる空想の世界です。



「エレベーターのふしぎなボタン」

加藤　直子//作　杉田　比呂美//絵
（ポプラ社）

エレベーターに乗ったら、見えない緑色のボタンがあった。「あれ？こんなボタンあったっけ？」と思いながら、おそろおそろ押してみた。マンションは11階までなのに、11階を通り過ぎて、まだ上がってる。「このまま止まらなかったらどうしよう」と心臓がドキドキしてきた。やがて、しずかにエレベーターが止まった。そして、ドアが開いた。「あ！」…。



「山に登る」

星野　秀樹//作　・写真（アリス館）

わたしが住む日本は約60 % が山です。丘もふくめると約70 % が山ということになります。だから、見まわすと、そこには必ず山の姿があります。歴史ある建物があるのも、おいしい水が飲めるのも山のおかげです。木々があざやかに色づくころ、家族で山のぼりはどうでしょう？